

日本労働年鑑 第51集 1981年版  
The Labour Year Book of Japan 1981

第二部 労働運動

XIV 政党

3 日本社会党

(3) 大会後の中央委員会

第五八回中央委

日本社会党第五八回中央委員会は八〇年五月二二日、東京・霞ヶ関の全日通会館で開かれた。この中央委は衆・参両院の同時選挙を目前にしての総決起集会ともいうべきものであった。冒頭のあいさつで飛鳥田委員長は、衆参同時選挙で与野党逆転を達成できる見通しはきわめて強い、との判断を示し、そのなかで社会党が主導権をとりうるよう勝利し、社公合意を基本とし、共産党をのぞく広範な反自民勢力を基盤とした新しい連合政権をつくること が 焦眉の急務だと述べた。また、非武装・非同盟・積極中立といった党是は堅持するが、こうした綱領的次元の主張を、当面の連合政権を形成するに当たって他党との連合の妨げにはならない、と主張した。つづいて総評の槇枝議長、中立労連の田口副議長、新産別の富田書記長、全日農の足鹿会長、社会文化法律センターの水島事務局長の来賓あいさつがあり、ついで多賀谷書記長の政治報告、宮之原選対委員長の選挙闘争方針の提案をうけ、討議がおこなわれた。『社会新報』八〇年五月二七日付参照。なお、委員長のあいさつ、書記長政治報告の全文は『月刊社会党』八〇年七月号にある。

日本労働年鑑 第51集 1981年版

発行 1980年11月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

労働旬報社

\*\*\*\*年\*\*月\*\*日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1981年版(第51集)【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)